

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト<http://3step.hosei.ac.jp/>

文部科学省『大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)』採択プロジェクト

就業力は学ぶ姿勢から

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

「考える」を意識して学ぶ

大学での「学び」はもちろん「専門知識を得る」事が中心に位置します。しかし、もう一つの側面である「情報を考える」姿勢への意識がいままでの大学生には足りなかったと感じています。高校までの教育で「覚える」を中心の学びをしてきた学生にこの「考える」姿勢を身に付けてもらいたい、この姿勢こそが就業力強化に直結すると考えています。教える側も現場での指導に「情報を考えさせる」側面をぜひ増やしていただければと願う次第です。

「基本」を展開する

担当している授業「企業と経済の動向」の初回で、就業力強化には大人(社会人)と接する機会を増やす事、その際の要点は大学での授業の受け方そのもの、と説明しました。その内容は、①メモ(ノート)を取る、②キーワードを押さえる、③考えながら聞く、の3点です。

「聞く」での基本的な態度ですが、この3点は「読む」「書く」「話す」すべてに共通との説明を加えました。

更に「書く」では結論から簡潔に書く、その為には下書きを習慣付ける事、又「話す」では相手の話をしっかり最後まで聞いて自分の言葉で確認する事も強調しています。レポートやリアクションペーパーの書き方で注意するばかりでなく、ゼミやサークルその他、大学時代の活動すべての実践で身に付ける事をしています。

「現場」のニーズを実感する

企業と大学双方の現場で就業支援をしてきた経験を語りかけて「現場」でのニーズを実感してもらい、日頃の取組み姿勢が大事な事を伝えています。例えば、情報を正確に捉える為には「5W1H」(When, Who, Where, What, Why, How)の把握が大切です。しかし、現場でのやり取りにはこれに加えてWhichの提示が必要です。

他者の提案へ疑義を持つならば対案の提示が、自分が提案する場合には2つの案を提示・比較して、どちらかを選択・推奨する態度が求められます。論文やプレゼンテーション更にはグループでの意見発表で実行する事を求めています。

「意識」を高めて支え合う

この様に学生には「情報を考える」姿勢を説明し納得させた上で、それぞれの講義に取組ませる。そして専門知識を教える先生方もこの取組み方を理解・実践していただく。こうして双方から学生の就業力育成を支援・強化していく地道な努力こそが底力になると確信しています。



略歴

70年慶応義塾大学経済学部卒。

70~06年 伊藤忠商事(株)勤務

06~11年 帝京大学、

法政大学職員。

11年~ 法政大学教員



略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。

社会は労働の連鎖でできあがっている

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

私たちの社会は、各人の労働がつながることで、快適な生活の基盤を形成しています。私は、これを「労働の連鎖」と呼んでいます。▼昨年度まで担当していた「キャリアデザイン入門」で、学生たちに次のような課題でグループディスカッションをしてもらいました。「外濠校舎の1階にあるコンビニエンスストアで売っているおにぎりが、この場所に来るまでに、いったい何人の人の手を経ているだろう?」▼私たちは、お店にお金を持って行けば、欲しいものが買えるという状態に慣れていますが、3月11日の大震災のような事件が起こると、お金を持っていても買えなくなります。労働の連鎖が途切れたからです。また、一部の人がいつもよりちょっと多く買っただけで、店頭から商品がなくなるという事態も経験しました。私たちの社会は、危ういバランスの上に成り立っていることを思い知らされた出来事でした。▼さて、先の課題にあなたはどういう答えを出すでしょうか。一度、考えてみてください。私なりの答えは、次号でお知らせします。



略歴 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。2011年3月、同博士課程中退。

社会人ゲストからも「受講したい！」

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

「就業基礎力養成I」では、ゼミと同様に「情報収集と吟味」「まとめる」「伝える」といった力の育成に取り組んでいます。学生は、調査対象企業について、同じ受講生からアンケート調査を行ない、その結果をもとに企業研究をします。発表の際には、調査企業の社員もゲストにお呼びしています。学生の疑問を学生が調べて答える、次に実際に企業等で働くゲストが補足説明を加える。両者の回答が一致しているケースもあれば、隔たりがあることもあります。受講生は、こうした一連の取り組みを「報告書」にまとめ、企業へ提出します。毎回、学生からは「キツイ」「厳しい」との声もあがりますが、そこは私の鈍感力が一枚勝っているせいか、やや手厳しく取り組んでいます。



略歴 日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

膝詰め授業の宿題ゼミ

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

今月は学習ステーションの企画である「就業力」昼休み宿題ゼミを開催致しました。30分という短い時間ですが、「リーダーシップ論」と「モデリング学習」について解説後に宿題(理想のリーダーを選び、参考文献読後に簡単なレポートを提出する)を出しました。結果、受講学生の14名のうち9名から宿題が提出され、2回目のゼミで添削した内容を解説いたしました。

正直、自分から宿題を貰いに来る学生など居るのだろうか?とっていたのですが、大教室講義ではできない個別フィードバックと手の届く距離のコミュニケーション、そして学習ステーションのアットホームな雰囲気とが参加意欲につながったようです。やはり教育には距離感が大切ですね。この経験を今後の本格的なゼミ活動につなげていって欲しいと思います。

◆ 高校生向け連続キャリアガイダンスのご案内

高校生のみなさんに大学での“学び”を模擬体験してもらう連続講座を実施します。

日時: 2011年6月26日・8月7日 / 21日 / 22日(オープンキャンパス開催日) ★ 詳細・お申込み方法は「就業力 GP」のHP
定員: 60名(事前申込み制) 時間: 13:20~14:50 場所: 法政大学市ヶ谷キャンパス (<http://3step.hosei.ac.jp/>) をご覧下さい。
講師: 児美川 孝一郎教授(キャリアデザイン学部長) 白井 章詞 特任講師

第1回(6/26)「大学で学んでなに?」 第2回(8/7)「仕事×仕事=?」
第3回(8/21)「わが家のおサイフ」 第4回(8/22)「その時、君はどう動く?」

◆ お昼休みに学習ステーションで講演を実施

在学生の学習活動をサポートする目的で開設された「学習ステーション」にて、藤村 博之 教授(就業力 GP プロジェクトリーダー)が講演を行っています。(時間: 13:20~14:50) [お問合せ・お申込みは学習ステーション\(03-3264-9072\)まで](mailto:03-3264-9072)

「これから就職の話をしよう! ~大学本来の役割とは?~」

6月23日(木)「大学の勉強は役に立つ?立たない?」 7月7日(木)「自分は何に向いているのだろうか?」

7月14日(木)「仕事はどうやって選んだら良いのだろうか? <3回の講演を経て学生フリートークが7月21日(木)に行われます。>

◆ 編集後記: 今は6月下旬ですが、もう最高気温が30℃を超えています。節電体制の下、28℃設定の教室の状況は如何に?

バックヤードの事務局も気を揉む毎日です。冷房制限は確かに大きな電力の節約になりますが、人間にとって「心地よさ」は仕事の量・質にダイレクトに影響するのは…。クオリティを下げずに仕事するための「就業力」を、ぜひ身に着けたいです。 << 事務局: 細田 >>

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト(事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる**3ステップシステム**
文部科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)」採択プロジェクト